

## 早稲田大学 教育学部 地学 講評

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	一昨年、昨年と二年続いて大問3題であったが、今回は大問4題となって、小問数は5問増えた。計算問題は昨年と同様1問であったが、描画問題は前年度1問であったところ2問と増加し、論述問題は1問減って5問となっている。昨年度出題されなかった宇宙分野が復活したものの、大気海洋分野は出題されなかった。第2問は、記憶に新しい「東北地方太平洋沖地震」を書かせる問題が出題されるなど、現実的な内容となっていることが目新しい。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	地質図 地史 岩石	例年出題されている地質図の問題であるが、今年は描画問題が2問あり、しかも複雑な地形のため解答に時間がかかる。論述問題も3問あった。	難
II	地震 プレート	地震とプレートに関する問題であったが、論述問題はなく、比較的解きやすい問題ではあったが、記憶に新しい日本の地震名を問う問題が出題されたのが目新しかった。	やや難
III	固体地球	地球内部の熱に関する問題であった。地温勾配、地球内部の熱エネルギー、それに伴う地球表層の現象など、総合問題として出題された。	標準
IV	太陽系	太陽系に関する基本的な問題で、穴埋め形式が殆どであるので、解きやすかったと思われる。	易

## 〔総合コメント〕

今年度の入試問題は問題数は増加したものの、穴埋め問題や選択問題が増加したため、難度はそれほど上がっていない。昨年出題されなかった宇宙分野が出題されたが、海洋分野は出題されていない。描画問題は2問あり、地形が複雑なため、描画に時間がかかったと思われる。普段から正確に書けるように演習を積んでおきたい。また、論述問題は5問もあるので、必要な事項を短時間でまとめる文章力が求められる。また、早大地学の特徴である、高校地学の範囲外の知識を求められることがあるため、常日頃から地学関連の書籍やニュースなどで情報を取り入れておくことも必要である。